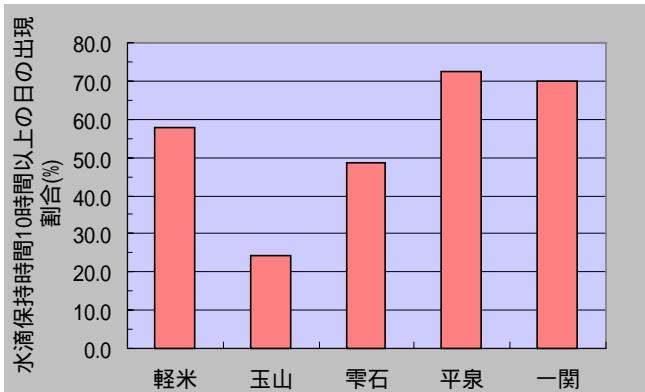


イネいもち病無防除栽培が可能となる立地条件と施肥水準

いもち病の発生の極めて少ない玉山と、その他4地点(軽米、雫石、平泉、一関)では、感染に好適な気象条件に違いが見られた。

圃場抵抗性弱～中品種を用いたいもち病無防除栽培は、玉山では慣行施肥でも可能であるが、その他の地域では黒ボク土では半量施肥、沖積土では無施肥にしないと難しく、その場合の収量は慣行の8割程度と考えられた。



玉山は、一般にいもち病の感染に好適と言われる一日当たり水滴保持時間10時間以上の出現割合が低かった(12～37%)。

一方、他の地域は相対的に出現割合が高かった(38～88%)。

図1 7～8月の一日当たり水滴保持時間10時間以上の日の出現割合(H7～12平均)

表1 穂いもち発病総率(%)

地点	施肥レベル	H7	H8	H9	H10	H11	H12
軽米	無施肥	-	-	-	0.5	-	0.7
	半量施肥	-	-	-	0.8	-	1.9
	慣行施肥	-	-	-	0.3	-	9.6
玉山	無施肥	6.6	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0
	半量施肥	-	0.1	0.3	0.2	0.0	0.0
	慣行施肥	7.4	0.4	2.0	0.1	0.0	0.0
雫石	無施肥	11.3	0.5	0.3	0.5	0.1	0.2
	半量施肥	-	1.9	3.6	0.6	0.0	0.1
	慣行施肥	70.0	3.6	13.6	3.0	0.1	0.8
平泉	無施肥	-	-	-	(0.7)	3.5	0.1
	半量施肥	-	-	-	(3.5)	20.1	0.4
	慣行施肥	-	-	-	(1.3)	23.6	0.6
一関	無施肥	-	-	-	0.3	0.0	0.1
	半量施肥	-	-	-	5.2	0.0	-
	慣行施肥	-	-	-	7.5	0.2	0.5

注1) 品種：かけはし(軽米) あきたこまち(雫石、玉山) ひとめぼれ(一関、平泉) いずれも圃場抵抗性は中～弱品種である。

注2) いもち病は無防除である。

穂いもち発病率の許容水準を5%以下とした場合、これ以下となるのは、玉山は慣行施肥以下、その他の地域は減肥または無施肥の場合であった。

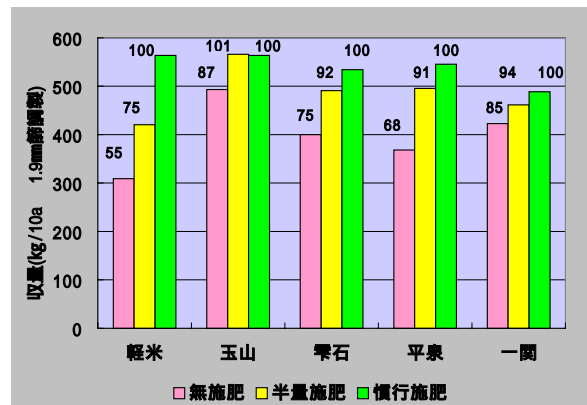


図2 施肥量別の平均収量

注1) 土壌型 軽米、雫石：黒ボク土 玉山、平泉、一関：沖積土

注2) いもち病防除区の収量である。

穂いもち発病率が許容水準以下となる施肥量の場合、収量は玉山が慣行並、その他の地域では黒ボク土で対慣行84、沖積土で対慣行77であった。